

2022 年度
創発的研究支援事業 年次報告書

研究担当者	本村 泰隆
研究機関名	大阪大学
所属部署名	大学院医学系研究科生体防御学
役職名	准教授
研究課題名	Innate IgE によるアレルギー体質形成機構
研究実施期間	2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日

研究成果の概要

本研究では、抗原非特異的 IgE である Innate IgE に焦点を当てることでアレルギー疾患の根底に存在するアレルギー体質を理解し、評価することでアレルギー性疾患を未然に防ぐ予防法の確立を目指す。アレルギーマーチとして知られる乳幼児期の皮膚炎を起点に、その後の他のアレルギー性疾患（食物アレルギー、アレルギー性鼻炎、気管支喘息）の連鎖を引き起こす。このことは、皮膚炎が他のアレルギー性疾患の発症リスクの亢進（いわゆるアレルギー体質の形成）を誘導することを示唆する。そこで、乳幼児期に皮膚炎を誘導し、離乳後に他のアレルギー疾患マウスモデルを誘導することでアレルギーマーチモデルマウスを誘導し、解析を行ったところ、乳幼児期の皮膚炎が、後の喘息症状を悪化することを確認し、ヒトのアレルギーマーチの病態を模倣することに成功した。このモデルにおいて、マルチカラー解析を行うことにより各組織における免疫細胞の細胞動態を経時的に解析することにより、アレルギー炎症がなぜ組織を跨いで連鎖を起し、アレルギーマーチが形成されるのかを明らかにする。